

# 指示を素直に聞き、けじめある生活を送る子

松 本 享 典・岡 本 嘉 子  
岩 本 康 彦・八 木 啓 子

## 1. 対象児のプロフィール

(1) 生徒名 S. U (男) 高等部3年生 (18歳)

(2) 生育歴及び生活環境

- 昭和44年11月18日生 (第2子、次男)
- 小学校入学前……両親も精薄者であることから、社会的マナーやモラルの面での家庭教育が十分にされていない。友だちの家に無断で入り、勝手に食事をしたこともあるらしいが、そんな時でも、両親の適切な指導はなかった。
- 小学校時代……養護施設T学園に入所。遊びは、もっぱら年下の子とすることが多く、小さい子の世話もよくしている。が、同年輩の友人や先輩に対しては、機嫌をとって言いなりになっていることが多い。
- 中学校時代……市内H中学校特殊学級に在籍。学校では進んで生徒集団の中に入ることが少ないが、校外では先輩の言いなりになって問題行動を起こし、補導されたこともある。
- H中学校卒業後、本校高等部へ入学。現在もT学園から通学している。月に一、二度、自宅に帰っている。一歳年上の兄が車で送り迎えすることが多い。本年度4月、それまで生活していた小学生を中心とした生活棟より、高校生を中心とした棟へ移動した。

(3) 本児の実態

① 諸検査からの実態

WISC-R	(S58. 11実施)	I Q 39
田中ビネー	(S62. 2実施)	I Q 62
Y-G性格検査	(S62. 2実施)	A'型 (準型平均型)
東大式社会生活能力調査	(S62. 12実施)	11歳9ヶ月 (暦年令: 18歳1ヶ月)
職業適性検査	(S62. 2実施)	

☆心身障害者職業センターの所見

- 精神的側面…軽度の知的遅れあり。社交的でくったくのない反面、小心で自信のない様子がうかがえる。
- 社会的側面…日常生活能力は確立。他人の迷惑を考えない行動がある。人にひきずられやすく、さそわれれば断われない。しかし年下の者には威圧的態度をとることがある。反社会的行動が少しみられる。非社会的行動はない。
- 職業的側面…手先の器用さ、要領の良さがある。視覚判断も確か。口頭での説明で理解で

きる。幅広い範囲での就労が考えられる。

●運動能力テスト	(S 62. 4 実施)				
50m走	7 秒84	ボール投げ	32.5m	1,500m走	6 分53秒
	(8 秒51)		(15.7m)		(9 分08秒)

●体力テスト	(S 62. 4 実施)				
垂直跳び	50cm	握力	右47.0kg 左41.0kg	肺活量	3,900cc
	(38cm)		(37.1kg) (36.5kg)		(3,242cc)

※ ( ) 内は、高等部保健体育科の上位グループに属する男子生徒 9 名の平均値

## ② 知識・技能面の実態

日常よく使われる小学校三年生程度の漢字の読み書きはできるが、送りがなが十分理解されておらずミスが目立つ。数的処理に関しては、くり下がりのあるひき算にミスが目立つものの整数の加減であれば可能である。また、かけ算は九九ができ、計算機を使えば、桁数も間違えず加減乗除は正しく計算できる。時計は分単位で読め、計器類の目盛りの数も読めるが、単位関係の理解は不十分である。

また、運動技能は高く、球技やマット運動では本児の技能に匹敵する生徒は本校にはいない。音楽鑑賞や楽器演奏を好み、自分で音階を探しながら演奏する力を持っている。さらに、機械操作の習得力が高く、ガスコンロやカセットデッキなどの身近な機器をはじめ、印刷機や耕うん機などの操作も可能である。

しかし、当然理解されているだろうと思われる言葉や漢字、あるいは、一般的な社会常識が分かっていないことがある。

## ③ 態度面の実態

わがままな面や衝動的な面があり、けじめのない言動をとることが多い。また、注意を受けると、すぐにふてたり反抗的になったりし、さらには、その後で、廊下の壁をたたいたりけったりといった行動をとる。突然、奇声をあげたり大声を出したりして、周囲の生徒が恐がるようなことを故意にすることもある。そのため、更衣室や廊下で、本児におびえて場を離れる生徒が増えている。また、性的な面に興味・関心が強く、興味本意で女生徒と接したり、人前で平気で性行為にかかわるような言葉を言うことがある。

反面、明るい面もあり、休けい時には、ボール遊びや鬼ごっこを仲間をリードしてやっており、小学部児童のような年少の子に対しては、面倒見もよく世話も進んでしようとする。また、教師の体調を気遣う優しい面もみられる。

作業面に関しては、真剣に課題に取り組み向上しようという意欲が薄く、気分によって取り組む姿勢にムラがある。



子どもの国遠足(4月)で、一緒に来ていた小学生と遊ぶS. U

## 2. 個人目標の設定

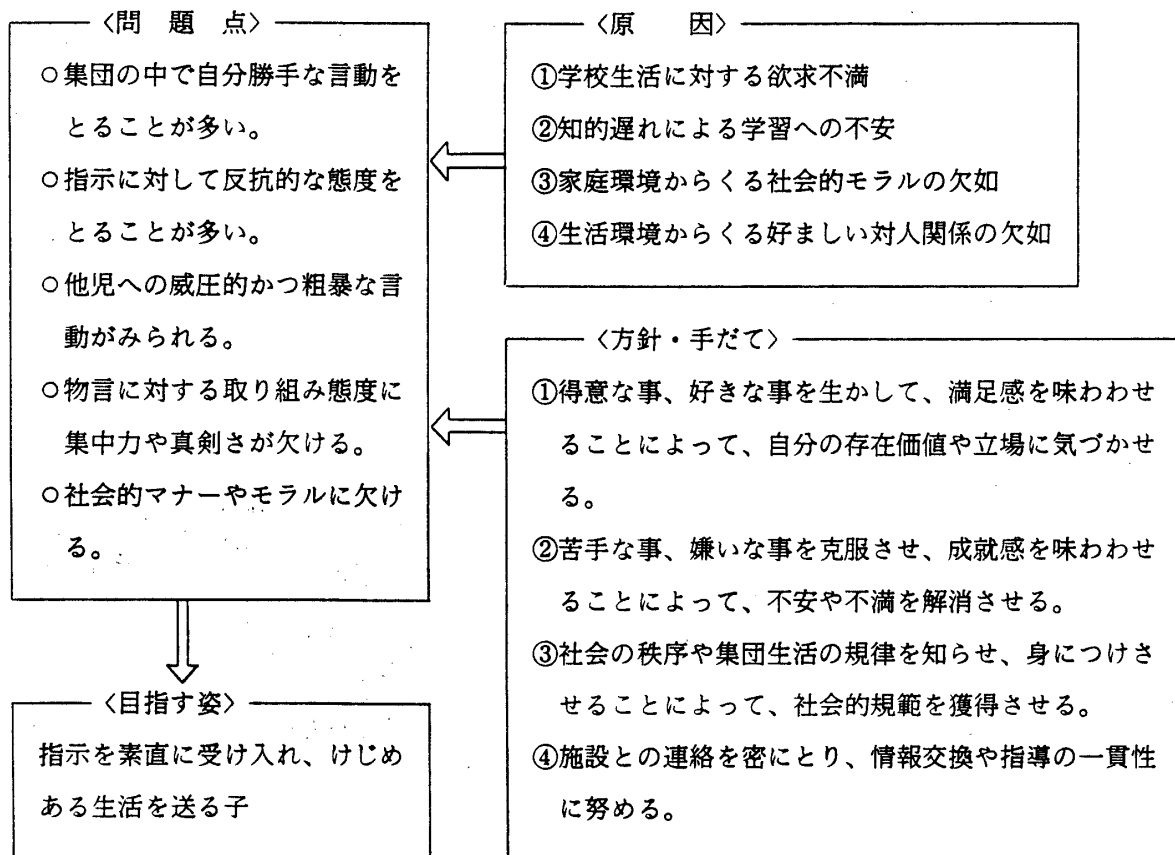
S. Uの学校生活における様子を見てみると、教師と一对一の時は、明るく素直な面もあり教師の体をいたわることもあるにもかかわらず、学級集団や学習集団などの中に入ると、自分勝手な行動や指示に対する反抗的な態度、他の生徒への粗暴な言動など、集団生活を送る上での規律や配慮からはずれる面が顕著に現れる。さらに、S. Uの言動は他の生徒へ与える影響力が大きいということも考えると、決して「人との好ましいかかわりができる子」とはいえない。また現在の実態から考えると①将来、就職（就職可能児）する場合に妨げになったり、就職できたとしても職場の人たちとうまくやっていけないのではないかと。これを放置しては、決して本人のためにならない。②周りの生徒たちが落ち着いて学校生活を送れないのではないかと。周りの生徒のおびえを取り除く必要がある。という思いを持つに至った。

そこで、上記の問題点を考慮し、S. Uの個人目標を『指示を素直に聞き、けじめある生活を送る子』と設定した。

そして、このS. Uの個人目標の達成を目指すことによって、高等部のテーマ「人との好ましいかかわり方を育てる指導はどうしたらよいか」に迫りたいと考えた。

## 3. 取り組みの構想

S. Uの個人目標を達成するにあたり、次のような仮説を設定した。



#### 4. 指導実践例

##### (1) 学級での指導

###### ① アプローチの仕方

集団生活を送る上での基本的な態度を身につけさせるとともに、基礎学力の向上を図る。さらに、担任としてS、Uのよき理解者となるように努める。

###### ② 指導の実際と変容

###### (ア) 苦手な事でも克服しようとする態度の指導

手紙や作文を書く学習では、「たいぎいっちゃ。」とか「書きたくないわい。」と言って一向に書こうとしない。原稿用紙をわざと机の下に落としたり、勝手に席を離れたりする。

他の生徒が書き終わるのを待ち、本児を別室へ呼び原稿用紙と鉛筆を渡す。「書きなさい。」と一言指示するのみで、じっと書き始めるのを待ち、書かなければいけないんだという意識を持たせる。内容に関しては、あまりとやかく言わず、よく書けている部分を大げさに誉める。反省文やお礼状の文は、毎回同じパターンを示し、書き方を身につけさせる。

作文に対する抵抗がなくなってきた。学習中の反抗的な態度がなくなり真面目に学習に取り組んでいる。書く量は多くないが、分からない漢字を聞きながら書くこともある。10月の職場実習後には、自分からお礼状を書いてきており、「先生、自分で書いてきたけえ。みんなが書く時は清書するわ。」と言ってきた。しかし、生活ノートの日記は催促しないと書かない日がある。

###### (イ) 学習時間を守り、話を聞く態度の指導

始業時刻が来ても教室にもどっていなかったり、やっていることを止めようとしなかったりする。指導者が話し出しても下や横を向いていたり話をしていたりする。

始業時刻前には必ず本児をさがし、いっしょに教室に入る。朝の会と帰りの会の時間はクラスで話し合っただけ、自分たちで決めたことであるという自覚を持たせる。指導者が話をする時には、不要の物は机の上に置かせず、指導者の顔を見、私語を止めるまで話を始めない。止めない時は、毅然たる態度で注意する。共同授業者は話をきちんと聞くように声かけをする。

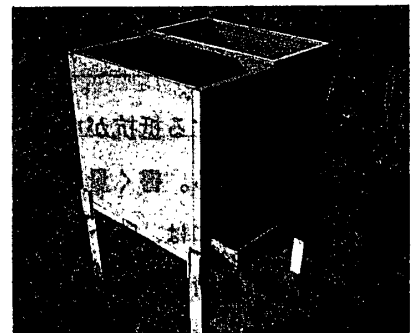
朝の会、帰りの会に関しては、間に合うように走って教室に入ってくるが見られだした。また、中学部のY子と交換日記をしていて(6/9より始めている)、学習時間中でも書いていることがあったが、指導者が前に立ったら机の中に片付け、話を聞こうとするようになった。12月9日、職員朝会が延びて朝の会を始める時間になっても担任が居会わせなかったが、本児がリーダーシップをとり、生徒のみで朝の会を運営し、担任の連絡を待っていた。しかし、時間を守ったり話を聞いたりしようという意識はできたものの、逆に「まだ時間があるから。」とか「時間までには必ず行くから。」とか言って、教室に入るようにという教師の指示を素直に聞かなかったり、学習中に奇声をあげたりすることは続いている。

(ウ) 放課後の利用、下校の指導

生活している施設に帰っても時間をもて余している。そのため、スクールバスで下校しようとして、わざと遅いバスで帰ろうとする。しいて乗せると、バスの中で下級生をいじめるなどの問題行動を起こす。

一学期…朝の時点で遅いバスで帰ることを申し出た時のみ遅いバスで下校することを認め、その時の気分次第でバスの変更をすることを許さない。  
二学期…バスの中での問題行動を防ぐために、意図的に遅いバスで下校させる。

5/26～5/30、放課後を有意義に過ごさせるために、金鶏のひなの飼育小屋をいっしょに作る。6月～10月、部活動に取り組みさせる。



金鶏の飼育小屋

金鶏のひなの飼育小屋作りや部活動には意欲的に取り組んだ。また、下校するバスを他の生徒より遅くしたため、問題行動はなくなった。S、U自身も、バスの中での問題は起こさないようにしよう意識できてきた。しかし、遅いバスで下校することは、好意を持っている中学部のY子(M学園から通学、下校のバスが遅い)といっしょにバス停に行けることになるため、むしろ、そのことのほうに満足している。現在は、スクールバスではないが、決めた時刻のバスできまりよく下校している。

※くわしくは、P87の問題行動の指導の実践を参照のこと。

(2) 保健体育科での指導

① アプローチの仕方

S、Uの得意とする分野であることを生かし、集団における積極的な参加の態度ならびに集

団の一員としての態度の育成を図る。そして次の点に配慮する。

- なるべく力いっぱい運動できる題材が授業内容となるようにする。
- 運動を楽しませることに心がけ、集団の一員としての行動を習得させる。
- リーダーとしての役割を押しつけず、自然と自分からリーダーとなるようにしていく。
- 必要以上に近寄らず、他の生徒と同じ扱いと感じさせるように気をつける。
- 授業中の問題行動に対しては、主となる指導者、担任、本児の三人で話し合う。

## ② 授業例

単元名 「ビーチバレーボール」(3/12)

12月5日 5限

学 習 活 動	本児への配慮事項	本 児 の 様 子
1、本時の学習内容を知る。	1、本時の中でもなるべく興味を持ちそうな部分をよく説明し、授業に興味を持たせる。	1、この単元には興味を持っており、静かに聞いていた。
2、準備運動をする。 (1) 体育館を3周する。 (2) 準備体操をする。	2、やかましく指示せず、のびのびとできるように心がける。	2、たまにふざけることがあったが、グループの中心になって運動に参加した。
3、ビーチバレーボールをする。 (1) 2人組でキャッチボールをする。 (2) チーム分けをする。 ●1チーム3人の6チーム (3) チームを主体にした練習をする。 (4) 模擬ゲームをする。 ●3人对3人で5分間	3、(1)指導者の一人とコンビを組み、運動に集中できるようにする。 (2)本児のチームにふざけやすい生徒を入れない。 (3)本児の良い点をみんなの前で誉め、他児の見本とする。 (4)チームの一員として特別に配慮しない。	3、(1)力一杯投げたり、難しいボールを受けたりと運動を楽しんだ。 (2)チーム分けについては特に抵抗はなく受け入れた。 (3)快よく、みんなの前で模範演技をした。 (4)チームの一員としてチームメイトをリードし、楽しんでゲームに取り組んだ。
4、本時のまとめをする。 (1) 整理運動をする。 (2) 反省をする。 (3) 次時の予告を聞く。	4、次時の授業の楽しい部分を強調し、期待を持たせる。	4、指導者に従って整理運動をし、次時の予告を静かに聞くことができた。

## ③ 指導の経過と変容

本年度当初、第一回目の体育の授業の際に当時本児によく見られた反抗的な態度を示したため、本児のみ授業を中断し、1人見学させた。さらに、授業終了後、担任の前でなぜ見学させたのか、本児の行動が他の生徒にどんな影響があるのかなどを話しながら強く注意した。その後、授業態度は非常によく、体育の授業に限っては、注意を必要とする場面はほとんどない。

逆に非常に意欲的な態度を見せ、本グループのリーダーとしてがんばっている。



ビーチボールを楽しむS.U

また、体育の授業以外の場でも、体育の指導者に対しては反抗的な態度を示すことがほとんどなく、指示が素直に聞いている。

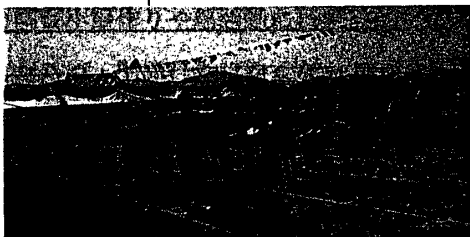
### (3) 音楽科での指導

#### ① アプローチの仕方

S. Uの得意とする分野であることを生かし、成就感を味わう場面を多く取り入れることによって精神的安定を図る。そして次の点に配慮する。

- 合奏を取り入れた題材を多く設定する。
- 本児の得意とする楽器（ビブラフォン）を意図的に担当させるなど、得意とすることが生かせる課題を与える。
- 課題については、できるだけ本児自身に解決させる。
- 練習成果を発表する場を多く設定する。

#### ② 指導の実際

	合奏を取り入れた単元・題材	本児への配慮事項	本児の様子
4月	「みんなでつくろう」	指示以外のことをしていても本児がやる気を持って取り組んでいれば、特に注意は与えない。	他児が1フレーズのみ楽器で弾いているのに対し、本児は全部さぐり弾きで、合奏の伴奏をした。
5月	アルトリコーダー	みんなの前で、発表させる場面を持つ。	始めは照れくさそうにしていたが、自分の知っている曲をみんなの前で吹き、満足そうにした。
6、7月	「ドレミの歌」	ビブラフォンを一人で担当させ、練習もなるべく自分の力でさせる。	ビブラフォンの旋律が主旋律でなかったため、やる気を示さなかった。この頃の授業態度が最も良くなかった。
9月	ピアニカ鼓隊 	指揮者に抜擢し、専用の衣装（手袋、帽子等）を与える。	始めは自信がなく、渋っていたが、全体で練習する前に個人練習をしたり、やり方を聞きに来たりして、自信ができてくるにしたがって意欲もできてきた。指揮棒、笛、手袋、帽子などの準備を指示されなくても自分からした。
10、11月	「ドレミの歌」	ビブラフォンの旋律を主旋律に変更する。臨時記号（b、#）の鍵盤にはシールを貼る。	意欲的に取り組み、きまりよく授業に参加するようになった。上達も早かった。
12月	「サンタが町にやって来た」	ビブラフォンで主旋律を弾かせる。	意欲的に取り組んだ。拍打ちをする木琴と合わせながら練習した。

### ③ 指導の経過と変容

S. Uは旋律楽器に対して高い技能を持っているが、それはどんな旋律でも弾けるわけではなく、よく慣れ親しんでいる旋律、あるいはすぐに覚えられるような旋律の時に、さぐり弾きをしているのであって、楽譜を見ながら演奏しているのではなかった。そのため、主旋律でない場合は、授業中の態度にけじめがなく指示を素直に聞かないことも多かった。

そこで、9月以降は主旋律奏のパートを担当させるようにしたところ、主旋律であれば、多少難しいと思われるものでも意欲的に練習し、演奏できるようになった。さらに、他児に与える悪い影響も少しずつなくなり、率先して授業に取り組むようになった。また、運動会でのピアニカ鼓隊の指揮者という役割を果たしてからは、指示も少しずつ素直に聞くようになった。

しかし、まだまだ、けじめある態度は身につけておらず、授業中にふざけてみたり、他児へちょっかいを出したりすることもある。

### (4) 職業科（印刷）での指導

#### ① アプローチの仕方

機械操作を得意とするS. Uの特徴を生かし、高度な技術習得を通して、好ましい作業態度（根気強さ、集中力、責任感等）の育成を図るとともに、班長としての人間性の向上を目指す。そして次の点に配慮する。

- 指導者の確実でスピーディーな技術を見せ、技術習得の目標とさせる。
- 得意な工程（刷り、包装）には、学習中に新しい課題を必ず一つは設ける。
- 苦手な工程（拾い、返し、組み）は、無理をせず、徐々に難易度の高い課題を与える。
- 常に班長であることを自覚させる。

#### ② 指導の実際

##### (ア) 刷りの工程

得意な機械操作が中心となり、興味を持って取り組もうとするが、少しでも難しいと思われる課題になると、顕著にやる気を失う。

< 印刷前準備 > < 印刷機の紙替え > < 巻き込みを防ぐための木の使用 >

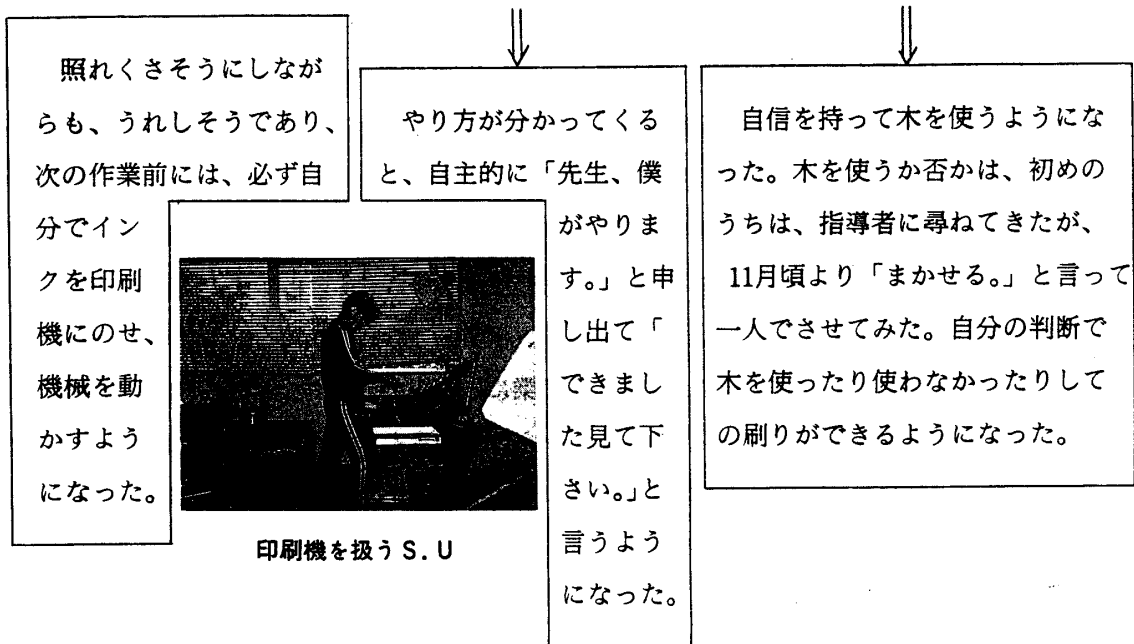
インクの量を適量にし  
ておく。ねりをさせ、適  
量であるためにきれいに  
刷れる。それを大きさに  
「すごくきれいだわ。」と  
誉める。

紙替えを行いながら、  
手伝いをさせ、力がいる  
所は全面的にさせる。そ  
して「さすが力があるし  
器用にしてくれて、きれ  
いにできた。」とお礼を言  
う形で誉める。

「ようせん」と逃げるのを一緒  
に手をそえさせる。本児ができる  
かもしれないと自分で思い始めた  
頃に、一人でさせてみる。一人で  
できた時には「今まで生徒で一人  
でできたのは初めてだ。すごい。」  
と誉める。

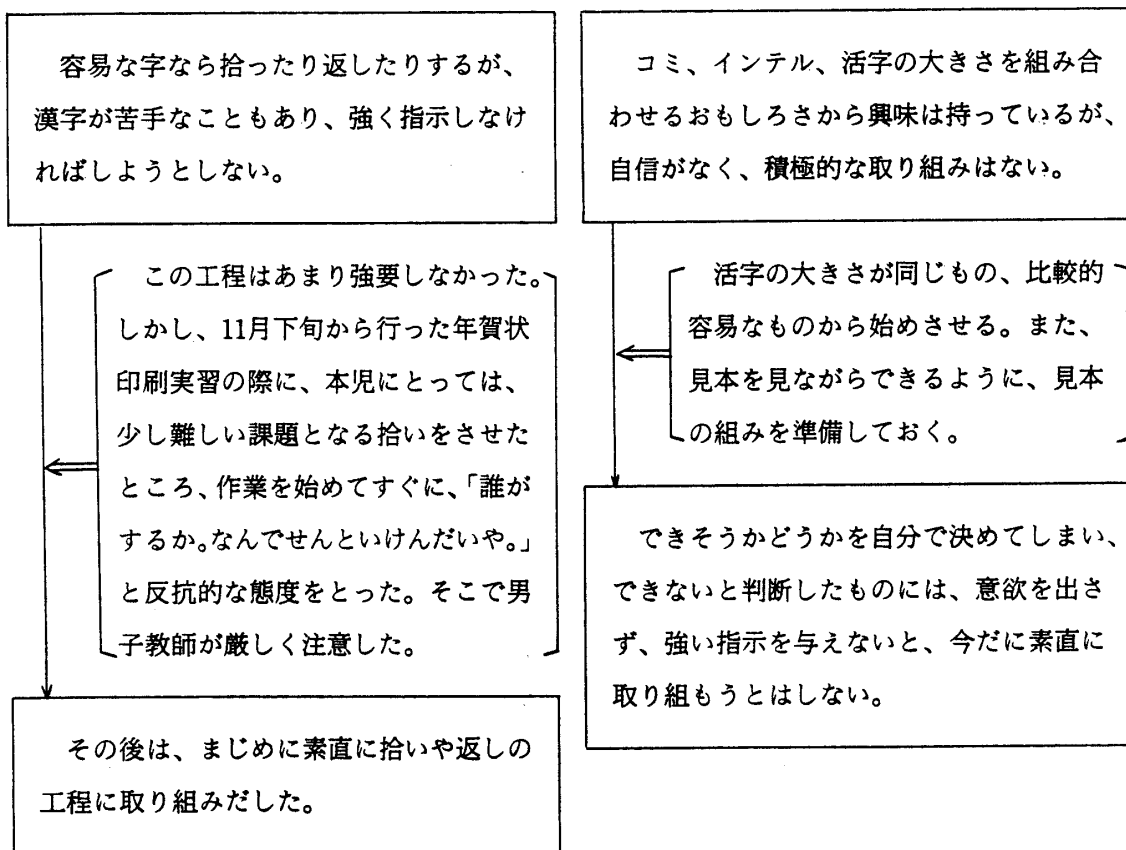






(イ) 拾い、返しの工程

(ウ) 組みの工程



③ 変容

刷りの工程に関しては、技能も向上しやる気も身についてきたため、指示が素直に聞けるようになってきた。しかし、集中力や責任感が今一つ身についておらず、ミスの発見が遅く、多数のミスが出るのが未だに多い。班長としては、班員に対しての威圧的な注意の仕方がなくなり、特に12月に入ってからは、接し方がとても柔らかく、周りの生徒も安定して作業に取り

組めるようになった。

一般的に、指示が素直に聞ける場面が増え、時には指示されなくても作業に取り組むといった自主性も認められるようになってきた。

(5) 主な問題行動と指導の実践

問 題 行 動	指 導 内 容
<p>(5月27日)</p> <p>○下校のバスを待つ間、H地区踏切付近で、山陰本線上り列車を両手を広げて停車させる。</p>	<p>○本児、校長、学部主事、担任、施設の先生と一緒に鳥取駅公安課へ謝罪に行く。</p> <p>以後、本児がH地区踏切前にあるバス停で乗車する時には、担任が十分にマークしバスへの乗車を見届ける。</p>
<p>(5月28日)</p> <p>○高等部一年生Y男を竹刀でたたき、あざをつける。</p>	<p>○本児、学部主事、担任、Y男の担任とで、Y男の家に行き、Y男と父親の前で謝まる。他人をたたいたりけったすりすることの非を教える。</p>
<p>(6月13日)</p> <p>○中学部Y子の生活している施設へ長電話をかけ、「学校でなぐったるけえな。」などの発言をする。</p>	<p>○施設の先生と連絡をとり、学校と施設で、施設には施設の生活時間があるということ、長電話は相手に迷惑がかかること、電話をかける時にも正しい言葉遣いが必要であることなどのマナーを教える。</p>
<p>(7月5日)</p> <p>○鳥取駅付近を歩いていた高等部三年生A男と同二年生M子に、「キスをしろ。」と強要する。</p>	<p>○好ましい男女の交際の仕方や友人関係のあり方、言動の良し悪しを教える。</p>
<p>(9月7日)</p> <p>○下校バスの中で、中学部M男（自閉症児）を含む数人の下級生に対して、ライターの火を近づけるなどして、いじめていたことが発覚する。</p>	<p>○次のことを約束させ、実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●登校は他児より早くし、登校後すぐに更衣を済ます。</li> <li>●下校は他児より遅くし、下校前に更衣をする。</li> <li>●休憩時は教室で過ごし、他学部への出入りはしない。</li> <li>●生徒会役員への立候補を辞退する。</li> <li>●今後、相手が恐がったり嫌がったりする行動をした場合は、他の生徒と一緒に学習させない。</li> </ul> <p>10月1日まで実施し、その後は解除する。</p>
<p>(11月8日)</p> <p>○自宅より兄の原付バイクを持ち出し、無免許運転で補導される。</p>	<p>○翌11月9日は一日校長室にて個別指導をする。</p> <p>11月10日～17日は他児と離し活動を別にし、以下の内容を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●生活の基盤を印刷室におき、更衣・給食とも印刷室で行う。</li> <li>●印刷、農園作業を中心に行う。</li> <li>●登校はスクールバスとするが、下校はH地区バス停にて乗車する。</li> <li>●学習発表会での発表は不参加を基本とするが、本児の態度ややる気の有無で、その仕方を決める。</li> <li>●印刷班の渉外担当を取り止める。</li> </ul>

(11月14日)

○登校バスに乗車の際、中学部N男をけるなどして泣かし、それを注意した小学部E子の母親に対して反抗的な態度をとる。



Aグループで縄回しをするS.U

○上記の取り決めに一日伸ばし、11月18日までとする。以後、登校時には、教師が毎日バス添乗をする。学習発表会への参加の仕方を次のようにする。

- 高等部の劇——劇中の配役はせず、幕の開け閉め係を担当
- グループ発表——Aグループの縄跳びで長縄回しの係を担当
- 全校音楽——練習を続けてきたパートをそのまま担当
- 係活動——器具係を担当

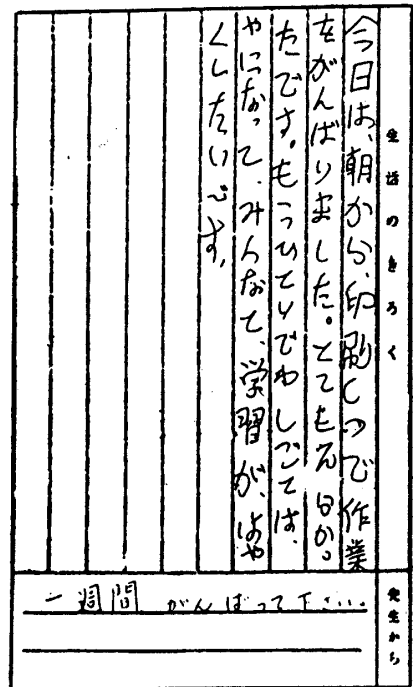
※これらの問題行動に対しては、その都度、担任あるいは学部主事が個別指導を行った。これらは、全教官との報告会や検討会を設け、共通理解をした上で実施したものである。

〈経過と変容〉

11月10日～18日に実施した他児と離れて別の活動をした後の本児の態度は、非常に素直で、指示に対してすぐに行動をした。そして右図のような日記を書いている。

また、上の記録にみられるように、大きな問題行動は、その都度の指導によりおさまっており、同じ問題行動はくり返していない。しかし、しばしば新しい問題を起こしている。

さらに、問題を起こす間隔が延びてきているようにも見えるが、日常の下級生に対する威圧的言動などの行動は、多少の緩和が認められるものの、今も続いている。



11月13日の生活ノートより

(6) 他児への指導

① アプローチの仕方

他児への影響力が大きいS. Uの実態を考慮し、他児の情緒の安定を図りながら、生徒同士で問題解決ができる能力や人間関係の育成を図る。そして次の点に配慮する。

- 悩みを打ち明けられる人間関係を作るよう努める。
- S. Uの良くない事は真似ないようにさせる。
- S. Uの行動を必要以上に他児の前で非難しない。
- ささいな事も報告させるが、秘密は厳守する。

② 事例と変容

- 「S. U君が〇〇していました。」とか「S. U君に××されました。」と報告してくる生徒が何人かでてきた。
- S. Uを真似て、指示に対して「たいぎい。」とか「何でせないけん。」と素直に聞かない生

徒が少しずつ減ってきた。

- S. Uに対して、「～しようで。」と場面によっては言える生徒が現れた。
- 「S. U君の〇〇は良い面だけど、××は悪い。」と評価できる生徒が現れた。

しかし、上記の事例はほんの一部(数人)の生徒のみのものであり、一般的には、教師がS. Uのいじめや危害から保護しなければいけない生徒がほとんどである。

## 5. 結果と考察

S. Uの問題行動や反抗的な態度を是正しようと、『指示を素直に受け入れ、けじめある生活を送る子』と個人目標を設定し、仮説を立てて取り組んできた。しかし、実際は常に本児の問題行動が先行してしまい、結果の指導に追われてしまった。そこで我々は、結果の指導よりも問題行動を起こさないための環境作りの必要性を感じ、問題行動が起こり易いと予想される休憩時間の巡回指導の強化や、中、高等部男子の更衣室の分離、必要に応じて教師が生徒の傍を離れないなどの手だてを学校全体で講じた。その結果、本児の問題行動は少しずつ減少してきた。

また、これらの指導を通してS. Uの次の特徴が明確になった。

- ①人格(知能も含む)の中に幼児と青年が同居している。
- ②注意されるとすぐに激昂し反抗するが、興奮が収まると、指示が素直に聞けたり自分の非を認めたりすることができる。
- ③本児にとって最も楽しく生活できる場所は学校である。

これらの事例をいくつか記してみたい。

①に関しては、性への興味や機械類への関心は青年期のそれであるが、小学部用のおもちゃに乗って楽しんだり、小学生向けのテレビ番組を喜んでみたりすることなどは幼児期のそれである。また、自分がやりたい事をとめられると、すぐにふてるのもそうである。

②に関しては、保健体育科での変容や11月に行った他児と離れて別の活動をした以降は大きな問題も起こさず、指示もわりと素直に聞けるようになったこともそうであるが、個別指導の際には、初めは反抗的で聞きわけがないが、必ず最後には「すみませんでした。」と言えた。また、指導者が「もう知らん。好きにしろ。」とつき離すふりをして、しばらく会話を交わさなかったりすると、後になってから「さっきは、すみませんでした。」と自分から謝ってくるのが数多くあった。

③に関しては、10月の職場実習の際に、本児の実習先K精工の工場長さんが、「学校を不満に感じているのなら、今日からでもうちに働きに来させたらいい。」と言って下さり、児童相談所の指導員の方も「S. U君を生かそうと思うなら、学校よりも、指導者がしっかりしている職場で働かしたほうが本人のためになるのではないか。」と言われた。そこで、本児の意志を確かめ、もし本児もそう思っているのなら、中途退学(注して懲罰の意味ではない)か長期職場実習の形で、K精工に通わせようかという話もあった。ところが、本児の気持ちは、「学校に来たいです。学校がいいです。」であった。また、注意されると、よく「こんな学校来たなかったわい。やめたるけえ。」とよく言っていたが、次の日にはケロッとして登校してきていた。近頃では、この言葉すら言わなくなってきている。このことは、学校生活に対する本児の不満を解消しようと指導を実践してきた結果による

のかもしれない。

少なくとも現段階では、まだまだ目の離せない生徒ではあるが、少しずつ『指示を素直に聞き、はじめある生活を送る子』になれる場面が増えてきている。

## 6. 反省と今後の課題

子どもは発達し成長する。成長すればいろいろな問題点が現れる。我々は、その問題点を的確にとらえて対処しなければいけない。

S. Uの場合、大人に対して反抗的な態度をとったり友人間で弱い者いじめをしたりといった面で、人と好ましいかかわりができなかった。しかし、この問題点は、本児が生きてきた18年もの歳月の間に身につけてしまった面が多く、一朝一夕には解決できないものである。

しかし、我々は学校教育の中で、何ができるかを考えながら指導にあたり、本児が少しでも、人と好ましいかかわりができるようにと実践してきた。その中で、やはり“愛情”が一番大切であることを痛感した。愛情に裏打ちされた指導こそが、その子を本当の意味で成長させ、その子もまたその指導にこたえてくれる。指導者としては、良き理解者であると同時に、本気で叱る厳しさも必要であると感じた。

学校生活もあとわずかとなった今、残る学校生活の中で、愛情を失わず、本児が人と好ましいかかわりができるように、その仕方を具体的な場面で具体的に指導しながら、その都度身につけさせていく努力を怠らないようにしていきたい。また、卒業後は、施設を退所して職場に通勤しつつ自宅で生活することになる予定なので、保護者にも愛情に裏打ちされた優しさや厳しさの大切さを知ってもらい、社会人として、実社会の中で人との好ましいかかわりができるように、家庭での理解を求めていきたいと考える。